

2025

SUPER GT
RACE REPORT

Rd.8

11.1 [sat] - 2 [sun]

[place] モビリティリゾートもてぎ (栃木県茂木町)

[weather] [sat] 晴れ / [sun] 曇り

[spectators] 50,000人 ([sat] 18,000人 / [sun] 32,000人)

MOBILITY RESORT MOTEGI



Rd.1	OKAYAMA	>>>	APR 12-13
Rd.2	FUJI	>>>>>>>	MAY 03-04
Rd.3	SEPANG	>>>>>	JUN 27-28
Rd.4	FUJI	>>>>>>>	AUG 02-03
Rd.5	SUZUKA	>>>>	AUG 23-24
Rd.6	SUGO	>>>>>>>	SEP 20-21
Rd.7	AUTOPOLIS	>>>	OCT 18-19
Rd.8	MOTEGI	>>>>>	NOV 01-02

TOM'S

ピットストップを遅らせる作戦で
終盤にアレジがライバルを猛追。
9ポジションアップで5位入賞を果たす。



2025 AUTOBACS SUPER GT Round8 MTEGI GT 300 km RACE GRAND FINALが11月1日(土)、2日(日)にモビリティリゾートもてぎで行われた。予選14番手に終わった#37 Deloitte TOM'S GR Supra (笹原右京/ジュリアーノ・アレジ)は、決勝レースではライバルよりもピットストップを遅らせる戦略をとった。笹原が着々と周回を重ね、終盤にはアレジが次々とライバルを追い抜く走りをみせて、最終的に9ポジションアップの5位入賞を記録。年間ランキング6位でシーズンを終えた。



37

TGR TEAM Deloitte TOM'S



Rd.8 Result

Qualifying	14 位	Driver Standings	6 位
Race	5 位	Team Standings	7 位

Qualifying 1 笹原 : P14 / 1'36.710

Qualifying 2 -

Race	笹原 : 1'40.102
ファステストラップタイム	アレジ : 1'40.887

QUALIFYING

天候：晴れ／気温：22℃／路面温度：24℃



公式練習では手応えを掴むも 予選Q1でペースが上がらず 悔しい14番手。

シーズン最終戦は全車にサクセスウェイトが課されない。逆転チャンピオンの可能性を残している37号車も、予選で上位を目指すべく準備に入った。前日の金曜日は強い雨に見舞われたモビリティリゾートもてぎだったが、土曜日午前の公式練習時には天候が回復し、ドライタイヤを履いてラップ数を重ねた。セッションの序盤から好タイムを記録していたものの、最終的には12番手のタイムであったが、Q2進出への手応えを感じていた。

午後に行われた予選では、笹原がQ1を担当。ウォームアップを済ませて4周目にタイムアタック。1分36秒710を記録したが、Q2進出ラインまで僅かに届かず、14位で敗退となった。今回は公式練習から全車のタイムが接近しているなかで、予想以上にタイムが上がらなかった。翌日の決勝レースでの挽回を目指し、入念に準備を進めた。

Race

天候：曇り／気温：20℃／路面温度：22℃

終盤にアレジが次々とオーバーテイク。 5位入賞を果たす。



曇り空のなかで始まった決勝レース。今回は300kmの距離で争われ、途中のピットストップは1回のみとなる。14番グリッドの37号車は、笹原がスタートを担当。予想に反して気温と路面温度が上がらなかったこともあり、最初は少し苦戦を強いられたが、プラン通りレース後半までコース上に留まった。笹原はタイヤと燃費を労わりながらラップ数を重ね、アレジのスティントで追い上げるという戦略を遂行した。

37周目にピット作業を済ませ、13番手で復帰した37号車。路面状況を考慮したタイヤの種類を選択し、これが功を奏した。アレジは次々と前をいくライバルを追い抜いて、残り11週の時点で6番手に浮上し、チェッカーフラッグを受けた。レース後、上位の1台が再車検不合格により失格となったため、正式結果では5位に繰り上がった。逆転チャンピオンは叶わず、年間ランキング6位に終わったが、最終戦で存在感溢れる走りを披露した。



苦しい状況の中でも
やれることはやりました。

ドライバー 笹原 右京

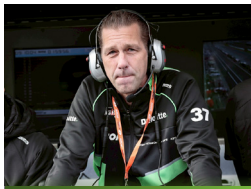
公式練習での手応えを考えると予選 Q2 はいけるだろうと思っていましたし、タイムアタック自体もうまくいったと思うのですが、この順位で終わったことは驚きでした。決勝はスタートで履いていたタイヤと路面コンディションが合っていないなか、ピットストップを後半まで引っ張る作戦だったので大変ではありました。その中でも終盤のペース維持など、やるべきことはちゃんと出来たかと思えます。少し地味ではありましたが、コツコツと走ってタイムを稼いでいくステントでした。



もっと早くライバルを
追い抜いていきたかった。

ドライバー ジュリアーノ・アレジ

前半の右京からタイヤの種類を変えて後半ステントに臨みました。ライバルよりもタイヤが新しい状態だったから、前にいくしかないと考えて攻めていきました。ペースも良かったので、それを活かしたかったのですが、ピットから出た時が 13 番手で、そこからテンポよく順位を上げていけば良かったなと思いました。そこは僕の課題でもあるので、来年に向けて改善していけないと思っています。



チーム監督 ミハエル・クルム

予選はタイヤのグリップをうまく引き出すことができず悔しい結果になりましたが、最後は気持ちよくシーズンを終わらせたいと思って戦いました。前半の右京が粘ってくれたことで、後半のジュリアーノで追い上げることができましたが、追い抜きが難しいもてぎのコースで 13 番手から 5 番手まで順位を上げたというのは、本当に素晴らしいです。結果は 5 位ですが、予選順位を考えると優勝に値するレースができたと思います。そして、1 号車のチャンピオン獲得には「おめでとう！」と言いたいです。



チームオーナー 館 信秀

37 号車は予選結果が少し残念でしたが、決勝では作戦がうまく決まって、素晴らしい追い上げを見せてくれました。ジュリアーノもあれだけオーバーテイクして、きっと本人も走っていて気持ち良かったと思います。最後はポイントを獲得して終わることができたので、来年につながる結果を出すことができました。今年は優勝もありましたし、レース中の速さも見せることができる場面もあったので、来年の活躍が楽しみです。1 年間、たくさんの応援をありがとうございました。

Deloitte.

BINGO

WET-FIX

ZENT

GR TOYOTA GAZOO Racing

TGR-D

BRIDGESTONE

OKANO Express

ほうらいせん
www.houraisen.co.jp

ISSE

BRIDE

かいよく

S&D TAMA GROUP

AUTHOR

PARTS.CO.JP

ENKEI

ThreeBond

HRX

Mizuno

MECHANIX WEAR